

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスあおば		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 9日 ～ 2024年 12月 26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 9日 ～ 2024年 12月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様のご協力があって成り立っている事も多い。特に個別支援計画見直しの面談時に具体的な課題を示して頂き具体的な計画目標を立てる事が出来ている。	事業所だけで取り組むのではなく、保護者様と一緒に課題に取り組むことが出来ている。	お子様、保護者様、職員が情報を共有して課題に取り組んでいる。
2	お子様同士の仲の良い関係が、事業所の明るい雰囲気につながっている。低学年の子どもは職員のお手伝いをする年上のお子様をすごいと感じている。	年齢や学年や先輩、後輩などお子様には意識できるように声を掛けている。年月が経ってくるとお子様自身に年長児としての自覚が芽生え、他の子に対する優しさや気遣い等良い流れを生んでいる。	いわゆる高校生になると、積極的に職員のお手伝いや、作業を依頼する事で、将来のお仕事に対する自覚を促している。お仕事なので手を抜かない、雑にしないなどその時間は厳しめに声を掛けている。
3	開所の頃から制作活動が続けている。手作りの木の看板に見本を見てそれぞれが作り上げたそれぞれの作品を並べて貼り出している。マンションの住人の方にお褒めの言葉を頂戴くこともある。長年続けているので、お子様は当たり前に取り組んでいる。	毎月、季節や行事に合わせた制作（工作）をプログラムしている。お子様には毎月、型をとる、はさみ、のりを使う見本に合わせようど良い場所に貼る等同じ作業を目先を変えて続けることが出来ている。お子様の集中力が高まったり、長く座れるようになったり、良い変化が見られる。	イベントと称してハロウィンやクリスマスなどお楽しみ会を開催している中で、昼食後一斉に工作して作った物で遊ぶ時間を設けている。自分の作った空気砲や起き上がりこぼし、こまなどで実際に遊ぶことでさらに物作りを好きになっている。手先の器用さ、力加減が改善され、想像力・創造力は将来に役立つと考えている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流への参加	地域で行われるイベントについて情報収集が出来ていない	まずは近所の放デイや作業所などと意見交換の機会を持って情報を得ていく
2	事業所からの情報発信について	その為のツールやアプリを使用していない	現在使用しているのはLINEとメールだけで、紙ベースの発信が中心になっている。特にそれで不満が出ていると認識していなかったが、強みに変えられるようデジタル発信についても勉強していく。
3	保護者会の開催が途絶えている	保護者様も日中働かされている方が主なので、曜日や時間の設定が難しい。以前は茶話会を企画していたがコロナ後は取り組めていないのが現状。	LINEで保護者様の都合の良い曜日や時間をアンケートしてみる